すべての学生に 興動人の「経験」を

「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を促進する「興動人入門ゼミ」スタート

1年次の必修科目として「興動人入門ゼミ」が後期からスタートし、「ゼロから立ち上げる」興動人を育てるプログラムがさらにパワーアップした。これにより、興動人になるための企画立案を1年次生全員が体験できる環境が整った。ここでは、「興動人入門ゼミ」の取り組み内容や実際の授業の様子を紹介する。



発表に向け企画立案を確認し合う学生を見守る教員たち

学生全員、興動人になる

平成27年度の後期より、1年次生全員が履修する「興動人入門ゼミ」がスタートした。このゼミでは、本学の学生全員が興動人としての資質を身につけることを目指し、プロジェクトの企画立案やプレゼンテーションを、1年次生全員が体験できる授業内容となっている。

興動人入門ゼミで目指している資質とは、「主体的に学ぶ人」「仲間と協働する人」「ゼロから考え、挑戦する人」「自分を表現できる人」「相手を思いやれる人」の5つである。授業は少人数で課題に取り組むグループワークが中心となっており、さまざまな課題に仲間と協力し合いながら取り組むなかで、これら5つの資質を実践的に磨いていく。

また、本授業では本学オリジナルの「興動人入門ノート」を用いていることも大きな特徴だ。このノートは、興動館職員と教員が協力して作り上げた。本年度で開設10年目を迎えた「興動館教育プログラム」や興動館プロジェクトで培われてきた教育のノウハウが活かされた内容になっている。具体的には、「興動人とはどんな人なのか」「どうしたらなれるのか?」について考えるところから始まり、プロジェクト開発に必要な企画立案のステップを学び、仲間とともに自分たちの企画を作成していく。そして最後には、自分たちでまとめあげた企画を大勢の学生の前で発表するプレゼンテーションに挑戦する。

これからの人生に活かす「企画力」

「興動人入門ノート」の製作の中心となった柾本伸悦准教授（スポーツ経営学科教員／興動館プロジェクトセンター センター長）は、〝学生が主体的に取り組む姿勢〟が最も大切だと話す。

「本授業の『興動人入門ノート』は、どうしたら学生が主体的に課題に取り組めるのかというポイントに重点を置いて作成しました。通常の授業では、教員は学生に知識を与える存在ですが、このゼミでは、教員は興動人を目指す道を示すだけのコーディネーターです。興動人は、既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神を備えた人です。その道を進んでいくためには学生の主体的な取り組みが必要なのです。教員は、学生が自ら考え踏み出していくのをしっかりと見守っています。立ち止まった時にはタイミングやアプローチの仕方に配慮しながら、適切なアドバイスをしています。

授業の最後には、自分がその日に学んだことを振り返り、『興動人入門ノート』にまとめます。また、チームのメンバーから自分に対する評価と次回に期待する点についてコメントを記入してもらうことで、次へのモチベーションにつなげます。仲間を客観的に評価することも大切な経験のひとつです」と、興動人入門ゼミへの思いを語った。

また、実際の授業での手応えについて、次のように続けた。



「興動人入門ノート」を基に話し合う学生たち

「インターネットを使った顔の見えないコミュニケーションが当たり前の若者が、グループワーク中心の授業を活発に進めてくれるか不安もありました。しかし、実際に授業が始まると、グループディスカッションも活発に進み、学生の楽しそうな姿に頼もしさを感じました」と笑顔を見せた。

この授業を履修した学生たちに期待することについて聞くと、「このゼミの目的は、興動館プロジェクトを立ち上げることだけではありません。ここで培った興動人としての力をゼミ活動、学生生活や将来の進路選択、そして卒業後の人生に活かしてほしいと願っています」と熱く語った。

学びの環境を成長の味方に

「興動人入門ゼミ」をきっかけに、学生たちの自主的な学びや活動は今後ますます広がっていく。そうした学生たちの意欲や活動を支えるのが、〝知識〟の「図書館」、〝創造〟の「明徳館」、〝実践〟の「興動館」である。なかでも、平成28年秋完成予定のアカデミック・コモンズ明徳館は、自学自習のための大学施設として日本最大級を誇り、学生の自主的な活動を支える最高の環境だ。

興動人の育成と施設の充実化の相乗効果について、石田真英興動館課長に話を聞いた。

「ゼミやクラブ・サークル、ボランティア活動などの仲間が自由に集える場所が増えることで、新たなアイデアもたくさん生まれてくるでしょう。〝創造〟の明徳館から生まれたアイデアを実践する場として、興動館は最適な場所です。

学生たちには、『何か』に取り組む際、自分の考える限界よりも少し上の目標を立てて挑戦してほしいと思い指導しています。困難に挑戦するときこそ、既成概念にとらわれない斬新な発想と旺盛なチャレンジ精神、そして仲間との協力が必要になります。そこでどれだけ力を発揮できるかが、興動人の真の力だと思います。明徳館をはじめとする本学の充実した施設環境を有効に活用することで、より質の高い活動が増えていくことを期待しています」と力強く語った。

本年度は、「ゼロから立ち上げる」興動人の育成を目指す本学独自のプログラム「興動館教育プログラム」が開設10年目を迎えた節目の年であり、さらに新たに本学の魅力の1つになる「興動人入門ゼミ」がスタートした記念すべき年でもある。仲間と共に学び、成長していく学生たちが、社会で活躍できる人材になるためのまた大きな一歩を踏み出した。

トピックス

本学卒業生　福岡ソフトバンクホークス
大きな飛躍の1年
柳田悠岐選手



立町キャンパスに掲げた懸垂幕

「日本一にもなれたし、いいシーズンでした」と新聞各紙にコメントしたのは、福岡ソフトバンクホークス・柳田悠岐選手（経営学科 平成23年3月卒業）。今シーズン、不動の3番打者として打率3割6分3厘、34本塁打、32盗塁でトリプルスリーを達成。初の首位打者にも輝き、2年連続の日本一に貢献。パ・リーグの外野手部門でベストナインを受賞し、さらにはリーグで最も活躍した選手に贈られる最優秀選手賞（MVP）を受賞した。プロ5年目の活躍を称え、本学同窓会（竹村雅之会長）の寄贈により、広島市中区立町にある広島経済大学立町キャンパスの壁面に懸垂幕を掲げた。懸垂幕は縦10メートル、幅1.8メートル。電車通りに面したキャンパスの壁に掲げ、通行人の注目を集めた。

「明徳館（めいとくかん）」順調に建設中

平成28年秋完成予定の日本最大級のアカデミック・コモンズ「明徳館」。地上10階建ての建物には、学生が「ここで学びたい！」と感じるような最新の設備が整えられる予定だ。平成27年12月1日現在、5階部分を施工中である。



正門すぐそばに建設中の新校舎「明徳館」

特報!!「中四国大学ブランド力」本学が10位に!!

平成27年11月27日、「大学ブランド・イメージ調査(2015-2016)」の調査結果が発表され、国公立を含む中四国の大学で、本学の順位が10位にランクインした。

この調査は株式会社日経BPコンサルティングによるもので、全国9地区455大学について、各大学の認知やイメージなどを尋ねたもので、本学は【中国・四国編】58校のなかでのトップ10入りとなった。

その他、イメージが1位の項目には以下のとおり挙げられた。

▼学生に対するイメージ

●コミュニケーション能力が高い　●面白みがある
●個性的である

▼一般的なイメージ

●自由闊達である

広島経済大学 広報

発行所
広島経済大学
広島市安佐南区祇園
五丁目37番1号
郵便番号731-0192
電話番号（082）871-1000㈹
ホームページ http://www.hue.ac.jp/

2面 興動館プロジェクト平成27年度の主な活動記録
3面 インターンシップ報告
4面 大学祭開催
5面 私の就職活動体験記
6面 平成28年度推薦入試結果報告／学生募集要項

興動館プロジェクト

平成27年度の主な活動記録

今年度も興動館プロジェクトに多くの学生が参加し、国内外で精力的に活動を続けている。今回は、公認プロジェクトAに昇格した「スポーツによる地域活性化プロジェクト」や、新規プロジェクトなどをピックアップして紹介する。

スポーツによる地域活性化プロジェクト

公認プロジェクトA昇格 今後の活動さらに加速

経済学科3年　大西　勘太朗さん　山口県／山口中央高校出身



サンフレッチェ広島観戦会の様子

10月1日に本学学長室において、昇格プロジェクト認定式が行われ、「スポーツによる地域活性化プロジェクト」が公認プロジェクトAに認定された。公認プロジェクトAは50名以上の参加者が必要であり、認定されれば大学から活動経費が最大1千万円まで補助される。もちろん、認定の審査には人数だけでなく活動内容や実績も重視される。

このプロジェクトは、広島県に拠点を置くスポーツチームを応援することで、スポーツ界の活性化を図るとともに、スポーツを通じて広島の地域活性化に貢献することを目指してさまざまな活動に取り組んでいる。今回の公認プロジェクトAへの昇格は、これまでの活動実績に加えて2件の新規事業が高く評価された。

新規事業のひとつは、「祇園地区の小学生を対象とした野球教室」。日本トップクラスのプロ野球選手と一緒にプレーをするなかで、野球の技術や楽しさを学ぶことができるのが魅力だ。こうした特別な体験を通して、小学生に夢や希望を持ってもらうことを目指す。


地域の小学生を対象としたFLPカップ

もうひとつの新規事業は、「高齢者と小学生をつなぐグランドゴルフ、ペタンクでの地域交流イベント」である。これまでのイベントは、若者を対象としたものが多く、高齢者とともに取り組む企画は初めての試みとなる。新しい地域貢献のあり方を開拓する意欲的な取り組みが、公認プロジェクトAの認定においても高く評価された。

今回の認定について、プロジェクトリーダーの大西勘太朗さん（経済学科3年・山口県／山口中央高校出身）に話を聞いた。

「今回、公認プロジェクトAに昇格できてとてもうれしいです。新規事業の野球教室は選手のケガなどもあり、今年度の実施はできなくなりましたが、次回開催に向けて企画を進めています。プロジェクトの仲間たちは責任感が強く、イベントの準備から当日の運営まで協力して取り組むチームワークが私たちの強みだと思っています。このプロジェクトの活動は、トップスポーツチームや選手はもちろん、地域の方々の協力がなくては実現できません。協力してくださる方々への感謝の気持ちを忘れずに、これからもスポーツをテーマとして地域に貢献できるイベントに取り組んでいきます」と力強く語った。

食育推進プロジェクトが食育メニューを販売

毎月19日の「食育」の日にちなみ、11月19日、本学学生食堂「ジョイア（学生会館リブレ5階）」において、食育推進プロジェクトが食堂「ジョイア」と共同開発した食育メニューを販売。肉中心の食生活になりがちな学生を対象に、自主的に野菜・魚を意識した食生活をするきっかけをつくることを目的としており、プロジェクトメンバーたちが栄養素や量などを本学栄養士と相談しながら考案した「サバの竜田揚げトマトソース」と「マセドアンサラダ」を日替わりランチメニューとして販売。通常の魚メニューの約2倍の注文があった。

次回の食育メニューは12月18日（金）。


「食育」日替わりランチ

新規プロジェクト紹介

本の世界に触れようプロジェクト

本の「新しい楽しみ方」を創造

メディアビジネス学科3年　谷本　麗華さん　広島県／高陽高校出身


小学生にしおりの作り方を教える学生

このプロジェクトでは「読む」だけではなく、本の新たな楽しみ方を創造・発信していこうと、本の魅力を多くの人に伝えるイベントを実施している。

例えば、しおりと装丁のファッション的な要素に着目し、オリジナルのしおりやブックカバーを作る講座を小学校などで開催した。また、幼いころから本に親しみを持ってもらえるよう、おすすめの書籍と読書感想文を書くポイントをまとめた冊子『読書感想文のスメ』を作り、講座に参加してくれた子どもたちに配付した。イベントの手応えについて、プロジェクトリーダーの谷本麗華さん（メディアビジネス学科3年・広島県／高陽高校出身）は、「初めての講座開催は緊張しましたが、参加してくれた子どもたちが楽しんでくれる姿を見て大きなやりがいを感じました」と楽しそうに話した。

その他にも、広島市内のカフェを併設している書店を紹介する冊子「HIROSHIMA BOOK & CAFE MAP」を製作した。

「書店の経営者を取材するなかで、本を仕事にする方々から本の世界に対する熱い想いを聞くことができ、とても内容の濃いパンフレットになったと思います。また、取材先で他の魅力的なお店を紹介していただき、本を通じて人の輪が広がっていく楽しさを感じることができました」と谷本さんは活動の魅力を語った。



学生が製作した冊子

このプロジェクトを立ち上げるヒントになったのは、福岡で行われている本のお祭り「BOOKUOKA（ブックオカ）」だった。本をテーマに街をあげてイベントに取り組んでおり、広島でもこうしたイベントをやってみようと本好きのメンバーが集った。現在は、「BOOKUOKA」と連携して、福岡で開催するイベントにも参加するなど、活動の範囲を広げている。

今後の活動について谷本さんは、「本好きの人はもちろん、普段はあまり本を読まないという人にも『読んでみようかな』と思ってもらえるイベントを企画していきます」と意欲を語った。

動物のかけがえのない命を守ろうプロジェクト

動物殺処分ゼロをめざして

経済学科1年　梶田　寛登さん　広島県／広島工業（県立）高校出身


広島市内でのボランティア活動

広島県は、動物殺処分数が全国でもトップクラスである。平和を願う広島県でこれ以上小さな命が犠牲にならないことを願って立ち上がったのが「動物のかけがえのない命を守ろうプロジェクト」だ。目標は「広島県の動物殺処分ゼロ」だ。

プロジェクトを立ち上げた梶田寛登さん（経済学科1年・広島工業（県立）高校出身）は、小学生の時に動物殺処分のことを知り、いつか動物たちを助ける活動をしようと考えていた。

「高校生の時にオープンキャンパスで興動館プロジェクトのことを知り、動物の命を守るプロジェクトを立ち上げようと決意しました。私にとって興動館プロジェクトは、思いを形にできる最高の環境です。

実際にプロジェクトを立ち上げるために、仲間を集め、活動方針について何度も話し合いを重ねながらプロジェクトの申請書を作っていく作業はとても大変でした。それを乗り越えられたのは、救いを待っている動物たちがいるという強い使命感や動物たちを救いたいと思っている仲間たちの協力があったからです」と、梶田さんは語った。

現在は、動物管理センターでのボランティア活動や広島県動物愛護センターの見学、企業と連携したチャリティーイベントなどに取り組んでいる。

今後は、動物の命を守る啓発活動にさらに力を注ぎ、小学生を対象とした「命の授業」や、古民家を活用した「動物の館」の運営、他大学と協力して行う「動物愛護研修」、「動物愛護センター見学ツアー」などのイベントを企画している。

「まだスタートして間もないプロジェクトで、すべてをゼロから作り上げていくのは大変ですが動物たちを守るためなのでそれに貢献できると思うとやりがいを感じます。

私たちの活動を通して、他の学生や地域の方たちに命の大切さを感じていただければうれしいです」と生き生きと語った。

カフェ運営プロジェクトが事例発表



川原さん（左）と湯﨑知事

カフェ運営プロジェクトが庄原市の農家の方と一緒に活動した成果を「湯﨑英彦地域の宝チャレンジ・トーク」で報告した。これは、湯﨑広島県知事が地元を元気にしようと活動している取り組みを伺いながら、県民による新たな地域づくり、広島県づくりについて考えていくもので、プロジェクトリーダーの川原慎さん（経営学科3年・広島県／賀茂高校出身）はトマトの定植、収穫活動を経て感じたこと、そして実際にカフェで販売した庄原産トマトを使ったオリジナルメニューの開発などについて報告した。

11/22(日) 第10回 祇園・興動祭 実施



開会式 興動祭実行委員長挨拶

「第10回祇園・興動祭　縁～あいさつから始まる明るいまちへ～」が開催され、約3,000人が来場した。興動館開館から10年目という節目の年。これまでに先輩が作り上げてきた地域の方々とのつながりをより強く感じるお祭りとなった。最後に、イルミネーション点灯式で興動祭は幕を閉じた。

興動館スタッフBlog



皆さんご存じ？「ゼロから立ち上げる」興動人の育成をサポートする興動館スタッフが学生たちの日々の活動や出来事を時にまじめに、時に楽しく記事に！「ゼロから立ち上げる」興動人とは何か…。興動館とは…。興動館の魅力が詰まっている興動館スタッフBlogをクリック！

挑戦と成長の日々

◇◇◇◇◇◇◇ インターンシップ報告 ◇◇◇◇◇◇◇

企業や公共機関などで就業体験に取り組むインターンシッププログラム。将来を見据えて自分を磨こうと多くの学生が参加した。各支援企業の絶大なご協力のもと、充実したインターンシップを体験した3名の学生による体験報告を紹介する。

平成27年10月30日、学内において能力開発科目、インターンシップ（国内・海外）の報告会が開催された。

◆インターンシップⅠ（国内）

研修先／株式会社広島銀行



経営学科3年
坂根　大貴さん
島根県／松江商業高校出身

銀行業務に挑戦し、仕事の魅力を実感

母親が銀行員だったことから金融業界に興味を持ち、銀行でのインターンシップに挑戦しました。株式会社広島銀行を選んだのは、他の地方銀行に先駆けて地域活性化に向けた新しい取り組みを意欲的に行っていることに魅力を感じたからです。

研修では、銀行員として必要なビジネスマナーや、銀行の三大業務である「預金」「貸出」「為替」について学んだほか、窓口対応のロールプレイングや、実際に店舗で使われているものと同じシステムを使って、通帳作成や入出金の業務を体験することができました。

また、特に印象に残っているのは、他大学の学生と一緒にグループワークに取り組んだことです。「学生向けクレジットカード業務の新提案」をテーマに、学生証に交通系の電子マネー機能を付けるプランを考え、最終日にプレゼンテーションを行いました。仲間たちのユニークな発想や意欲的に課題に取り組む姿勢に学ぶことがたくさんあり、自分を成長させていく強いモチベーションになりました。

5日間の研修を通して、コミュニケーション能力が鍛えられました。また、インターンシップを経験したことで、今の自分の課題に気づけたことも大きな収穫でした。ここでの経験を今後の大学生活や就職活動に活かしていきたいと思っています。

◆スポーツビジネス演習Ⅱ

研修先／ミズノ株式会社



スポーツ経営学科2年
加藤　優樹さん
広島県／安芸府中高校出身

プロの仕事に学んだ大切なこと

私は将来、スポーツ関連の企業で働きたいと思っています。職種などの具体的な方向性がまだ決まっていないため、スポーツ用品の総合メーカーでさまざまな業務を経験してみたいと思い、ミズノ株式会社でのインターンシップを希望しました。

5日間の研修のなかで、営業部署が使う営業車両の運行管理や出荷伝票の仕分けといった事務作業をはじめ、オープンして間もない直営店の棚卸し作業やスポーツ施設の環境整備、プロ野球チームからの用具の受注などさまざまな業務を体験することができました。

指導していただいた社員の方のお話のなかで特に印象的だったのは、「仕事には常に責任がつきまとう」「仕事には周囲との協力が不可欠」という言葉です。例えば、プロ野球選手が使用する用具には細部にわたってこだわりの注文があり、受注担当者はそれを商品として技術者に伝え、形にする責任があります。そうした「責任」は、たとえ担当業務がスポーツウエアの仕分け作業であっても、店舗周辺の清掃であっても同じです。一人ひとりが責任ある仕事をこなすためには、仲間との連携も不可欠なのだということを、社員の方々の働く姿を見て学ぶことができました。

この研修を通して得た、何事も自ら率先して行動する力や責任を持って取り組む精神を、今後の大学生活にも活かしたいと思います。

◆インターンシップⅡ（海外）

研修先／株式会社日本旅行
ホノルル支店



経営学科3年
竹本　ひかりさん
広島県／高陽高校出身

努力の先に大きな達成感

ハワイ・ホノルルで4週間、旅行会社でのインターンシップに取り組みました。昨年は同社広島支店での研修を経験したので、今回は国内と海外の仕事の違いについて理解を深めたいと思い、海外でのインターンシップに挑戦しました。

現地では、ホノルルに到着されたお客様に旅行のスケジュールなどについて説明したり、旅行プランについての相談を受けたり、さらにはお客様と一緒にツアーに同行するオプショナル・ツアー業務なども担当しました。



研修先の竹本さん

事前学習でハワイの名所などを勉強していましたが、実際にお客様に観光スポットやお店などを聞かれてもすぐに答えることができず、悔しい思いをしました。現地のことをもっと知る必要があると考え、休日には観光地を歩いて勉強することに。自分で見て体験したことで、お客様にも自信を持って観光情報を伝えられるようになりました。

こうした努力が他の業務にも活かされたと思います。旅行プランの相談業務では、私がお勧めしたツアー商品を選んでくださったお客様から「ありがとう」の言葉をいただき、仕事の達成感を得ることができました。

こうした経験のなかで、就職はゴールではなく、よりよいサービスを提供するプロとして、常に学び続けていくことが大切なのだと実感できました。

平成27年度 前期学位記授与式挙行

去る9月24日、第19回前期学位記授与式が、本学631教室において厳粛に執り行われた。

晴れて卒業の日を迎えたのは経済学部生47名（経済学科18名、経営学科18名、国際地域経済学科2名、ビジネス情報学科1名、メディアビジネス学科7名、スポーツ経営学科1名）と大学院生2名で、教職員と保護者が見守る中、一人ひとり学長から学位記が手渡された。



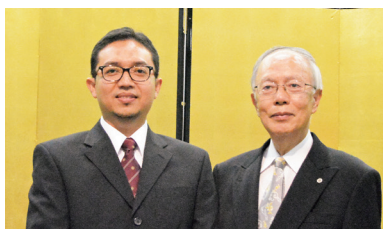
学位記を授与される卒業生

式辞に立った前川功一学長は「いくら優良企業であっても、利益を追求するだけの企業は、魅力に欠けるのではないでしょうか。また個人レベルでは、高学歴で成績優秀というだけでは、人々から尊敬されないでしょう。企業も個人も、どれだけ世のため、人のために貢献したかによって、尊敬されるのです。またこれからは、そのような企業や個人が、最終的には報われる社会に向かっていくと思います。〔中略〕いつの日か、同窓会や大学祭などの折に、立派に成長した皆さんと再会することを楽しみにしています。」と激励した。

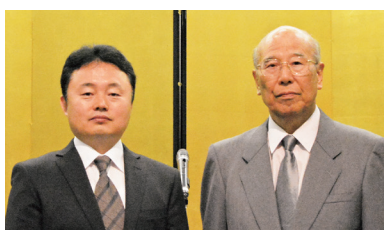
アミルラ サティア ハルディさん 呉 力明さん 博士号取得

2名の大学院生が本学大学院経済学研究科経済学専攻の博士課程後期課程において所定の単位を修得し学位論文の審査及び試験に合格したので（経済学）の学位を取得した。

呉力明さん（中国出身）は、中国の対外経済進出戦略・政策に関する研究を行った。「世界への影響力を拡大し続けている中国経済の問題点を明らかにする研究が、母国のさらなる発展につながればうれしいです」と明るく語った。



アミルラ サティア ハルディさんと指導教員の前川学長



呉 力明さんと指導教員の片岡名誉教授

アミルラ・セティヤ・ハルディさん（インドネシア出身）は、アジア経済危機前後の為替市場の統計データを用いて、アジア5カ国（インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、韓国）の為替相場制度の実態を分析した。「各国政府が公表していない為替管理の実態を明らかにすることで、より良い為替相場制度の構築に貢献できると考えています」と意欲を語った。

彼らの研究が社会の発展に寄与することを期待する。

保護者様向けメールマガジン配信中（通称：HUE（ヒュー）メル）

本学では、広島経済大学の最新情報を月初めにメールマガジンで配信しています。ぜひ、ご登録のうえご覧いただき、広島経済大学及び学生たちのことを知る一助にしていただければと思います。保護者の皆様の多数のご登録をお待ちしております。



平成27年度 保護者会秋季役員会開催



出野保護者会長による挨拶

保護者会秋季役員会が出野保護者会長をはじめ63人の出席のもと、11月26日広島ガーデンパレスにおいて開催された。

役員会では、大学改革の現況や就職状況など詳細な説明があった。その後の懇親会では和やかな雰囲気の中、活発な意見交換がなされた。

随想

「日本神話とブランド」

メディアビジネス学科　北野尚人　教授
（前職　株式会社博報堂）

仕事の関係で、ひょんなことから古事記や日本書記そして出雲国風土記を読む機会に恵まれたのは、およそ5年前の事である。

国生み、天の岩戸隠れ、八岐大蛇、因幡の白兎、国譲り、山幸彦海幸彦などのエピソードは古事記の中の有名な逸話である。一方、島根県では殆んどの人が知っている国引き神話が出雲国風土記にのみ登場する事は、その頃初めて知った。個々のエピソードを知ってはいたが、それぞれの話に登場する神々のキャラクターに関しては、かなりあやふやな知識しか持っていなかった。伊邪那岐命／イザナギノミコト、伊邪那美命／イザナミノミコト、天照大御神／アマテラスオオミカミ、須佐之男命／スサノオノミコト、大国主命／オオクニヌシノミコト（正確には大国主大神／オオクニヌシノオオカミ）の関係性と役割に関しても、あまりよく分かってはいなかった。

日本神話に登場する神々は、今も現実に存在する神社と密接な関係がある事はご承知の通りである。神社に参拝する時に、主祭神と一緒に祀られている相殿と呼ばれる神々の事を知っていると、楽しみが倍加する。何故ならば、その神々の関係性は日本神話のエピソードに由来しており、その神社に共に祀られる理由があるからである。

古事記や日本書紀の神々は、大変人間的である。喜怒哀楽や愛憎の気持ちを露わにする神様が多い。この辺りは、ギリシャ神話の神々に通じる所があって興味深い。人間のモデルがいて、それを神々の物語として編集していったのではないかと推測される。また、日本の神々は、色々なエピソードを通じて、様々な事を教えてくれる。

しかも、単純に日本神話に親しむだけでも十分興味深いが、更に現代社会に通じる要素が見つかると色々な意味でワクワクできる。

ところで、神社を巡って気付いた事が幾つかある。その一つが、神社は日本で最も古いブランドだという事だ。それぞれの神社には、神々にまつわる色々な物語が存在し、その神様の個性や神社の佇まいが気に入って繰り返し参拝する人がいる。この構造は、現代社会のブランドとリピーターの在り方に似ている。



神社に親しむようになった事は、まさに何かのご縁なのだと思う。これからも、古事記や日本書紀、出雲国風土記を片手に気になる神社に出掛け、未知の神々の物語に触れて行きたいと思う。

古事記

大学祭開催

11/14(土)・15(日)

11月14・15日の両日、第48回経大祭「Ｒｏｌｌ ｕｐ（まわりを巻き込む）」が開催された。メインステージでのトークショーやアーティストライブ、毎年スケールアップする「お化け屋敷」などで来場者を楽しませ、ゼミやサークル出展の模擬店など連日賑わった。テーマどおり、幅広い年代の方に一日中楽しんで頂ける充実した内容で開催された。



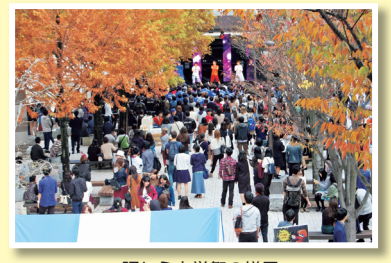


大学祭実行委員長挨拶

「お化け屋敷」のおばけたち



ダンス部 ～大学祭2日目のオープニング～



賑わう大学祭の様子



大盛況の本格的お好み焼き



写真部による写真展

学生が義援金募集



サイパン島復興のために募金活動をする学生有志



関東・東北豪雨義援金を寄付する学生

広島経済大学学友会が中心となり、台風18号の大雨による関東・東北地方の広い範囲で水害に被災された方々の支援の一助を目的に義援金の募集を行った。集まった義援金は11月30日に「中国新聞社社会事業団」へ春木孝也学友会会長（経済学科4年・島根県／松江商業高校出身）と稲田貴斗学友会副会長（ビジネス情報学科4年・島根県／松江商業高校出身）が届けた。

また、その他にもＵＮＧＬ主催の活動に参加した学生が中心となり、台風被害による被災地サイパン島復興のための募金活動を学内で行っている。集まった義援金はＵＮＧＬ事務局（愛媛大学）を通じてサイパン教育省へ送られる。

サークル戦績

○サッカー部（男子）
▽第95回天皇杯全日本サッカー選手権大会　出場
○水泳部
▽第91回　日本学生選手権水泳競技大会　出場
○陸上競技部
▽天皇賜盃第84回日本学生陸上競技対校選手権大会【男子走幅跳】藤原駿也　7メートル64＝5位入賞【男子5000メートル出場】大下浩平【男子10000メートル競歩出場】山岡翔梧【男子三段跳】石本惣一朗【男子4×400メートルリレー出場】吉田崇智、岡本朝日、西山浩也、浅野慎之佑【女子400メートルハードル出場】小山田みなみ
▽第70回国民体育大会【男子走幅跳出場】藤原駿也【男子4×100メートルリレー出場】藤原駿也▽日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会、第31回日本ジュニア陸上競技選手権大会【女子400メートルハードル出場】小山田みなみ
▽第27回出雲全日本大学選抜駅伝競走15位　2時間20分17秒
▽秩父宮賜杯第47回全日本大学駅伝対校選手権大会22位　5時間38分8秒
▽第59回中国四国学生駅伝競走大会　優勝　2時間44分40秒（4連覇）
※来年10月に開催される出雲全日本大学選抜駅伝競走（中国四国地区代表）の出場権を獲得
○卓球部
▽第82回全日本大学総合卓球選手権大会（個人の部）出場【男子シングルス】松本雅幸、大下喜弘【男子ダブルス】松本・大下ペア
○Ｆｌｙｉｎｇ　Ｄｉｓｃ同好会
▽第25回全日本大学新人アルティメット選手権大会出場

CIRCLE・INFO!

スピード感を楽しもう！

フライングディスク同好会



フライングディスクとは、プラスティック製の円盤を投げて競い合うスポーツです。その中で私たちが取り組んでいるのは「アルティメット」という競技です。1チーム7名のチーム対抗で、相手チームのゾーン内でディスクをキャッチすれば得点となります。この競技の特徴は、審判がいないこと。すべてのジャッジを選手が自分たちで行うため、「スピリット・オブ・ザ・ゲーム（各選手のフェアプレイに対する責任感）」が重要となります。ジャッジが必要な場面では、自分の意見を相手チームに伝え、また相手の意見を聞きながら試合を進めていくため、公正な視点と判断力が鍛えられ、人間的にも大きく成長できるスポーツです。

私たちは、現在15名で活動しており、学生定期戦（西日本大会）、新人戦（全国大会）での上位入賞をめざして練習に励んでいます。このスポーツは大学から始める人がほとんどなので、大学で新しいスポーツに挑戦してみたいと思っている人にはぴったりのサークルだと思います。

活動日・時間／月・水（15:00 ～ 18:00）、土（13:00 ～ 18:00）
場所／（月・水）フットボールパーク、（土）太田川河川敷
活動内容／中四国オープン、福岡オープン、全日学選、中四国交流会

経大の凄い人 特集 Vol.1

極真空手で日本代表!!

今回は、ゼミ担当教員胤森裕暢准教授からの推薦。極真空手で世界大会出場を果たした大下郁真さん（経営学科4年・広島県／呉宮原高校出身）を紹介。小学生から空手を始め、各大会で好成績を残しているワイルドな彼を要チェック！



キャンパス内の大下君

【プロフィール】
名前：大下郁真（おおしたいくま）
所属：新極真会　広島支部　大濱道場
段位：初段
【戦績】
ウエイト制大会（2011年）
・第28回ウエイト制大会　中量級　4位
・カラテワールドカップ（2013年）
・第5回カラテワールドカップ　中量級　優勝
・マス大山メモリアルカップ（2014年）
・第11回世界大会　日本代表　ベスト16
（2015年）
・第27・29・30回全中国空手道選手権大会　優勝
地方大会
・第27・29・30回全日本空手道選手権大会　優勝
日本代表　ベスト16
世界大会



試合中の大下君

自薦・他薦問いません。皆さんの周りの凄い人を広報課宛に紹介してください！

私の雑感 ゼミナール

71

経営学科
天王寺谷 達将 助教

裏の主題

私事であるが、今年2月、第一子の長女が誕生、社会デビューを果たした。また来年4月、天王寺谷ゼミナール第一期生が就職、社会人デビューを果たす予定である。第一子も第一期生も、私にとって、「初」。彼・彼女らのデビューは、とても幸せなことである。第一期生は、第一子の社会デビューをサプライズで祝ってくれた。

第一期生は16人、現在ゼミナール2年目の4年生である。私は、大学卒業後すぐに大学院に進学し、博士号取得後すぐに本学の教員となった。本学の教員として社会人デビューしたのは、平成25年4月のことである。彼・彼女らとの年齢差は8年。教師としての威厳を保つのに苦労しつつも、週一コマのゼミナール、その他授業外の様々な活動を通じて、専門知識を活かした教育を行ってきた。授業外の活動は、日帰り工場見学、工場見学を兼ねたゼミナール旅行、法政大学・名城大学との合同ゼミ、大学祭・スポーツ大会への参加、クリスマスパーティー、数々の飲み会と多岐にわたる。



写真は、ゼミナール旅行の一場面である。この旅行は、ゼミ生企画の自由参加型の研修旅行であったが、全員が参加し、仲を深めた。私は、同じ思い出を共有しているゼミ生たち同士、一生の友達でいて欲しいと願っている。天王寺谷ゼミナールの隠れた主題は、「人と人との繋がりの重要性を理解する」である。表向きの主題である「会計をマネジメントに活用する」について理解できていないゼミ生も、裏の主題について理解できていれば単位を差し上げたいというのが本心である。

一期生は、来年の春には、表の主題、裏の主題ともに消化した上で、立派な社会人デビューを果たしているであろう。さて、この御目出度い場面を、その頃1歳を迎えている第一子は祝ってくれるだろうか。わが子にも裏の主題について英才教育を行っているが、申し訳ないことに間に合わなさそうである。

（原価計算論、簿記2級、簿記3級Ⅰ・Ⅱ　ほか）

就職の広経大〝でありり続けるために

平成27年度の就職・採用活動は、前年度よりもスケジュールが3ヵ月後ろ倒しになった。本学では、企業との積極的なコミュニケーションを図り、学生と企業とのマッチングに力を注いだ。現在の就職内定状況とともに、本学の特徴的な就職支援について紹介する。

平成28年3月卒業予定の就職内定率（就職希望者）は、平成27年12月1日時点で79・8％となった。昨年同時期と比べてもほぼ同様の状況で、順調に推移しているといえるだろう。

今年度の就職・採用スケジュールは前年度よりも3ヵ月後ろ倒しとなり、多少の混乱も予想された。しかし、本学はこれも好機と捉え、今まで以上に企業との積極的なコミュニケーションを図った。地元の優良企業や特定の分野で業界をリードする企業からも、多くの学生が内定を獲得した。こうした好調な結果は、一人ひとりにあわせた本学独自の「オーダーメイド」の就職支援と、学生の努力の成果にほかならない。

「オーダーメイド」の就職支援で重要なのが、ゼミ担当教員とキャリアセンター職員との連携である。学生の人柄や適性などをよく知るゼミ教員が、ゼミ生との面談を通じて学生一人ひとりの就職・進路状況を把握。キャリアセンターでも就職ガイダンスの実施や個別相談を行うほか、業界・企業の詳しい情報やリアルタイムの求人情報を提供している。学生からの面談内容や就職活動状況は、Ｗｅｂを活用した本学独自の「就職支援システム」にデータとして蓄積され、ゼミ教員とキャリアセンター職員が共有できる。これにより、学生一人ひとりのその時の状況にあった効果的なサポートを行うことができる。

ゼミとの連携強化

人気の金融業界やスポーツ業界への内定者を多数輩出しているゼミや、授業の一環で2年次から企業訪問やインターンシップに取り組み、学生の資質やコミュニケーション能力を磨きながら優良企業への就職へと導くゼミなど、進路指導に積極的に取り組んでいる教員も多い。

今後の課題は、これまでに蓄積された内定者のデータから、学生の人柄や大学生活の過ごし方、就職活動の進め方などを分析し、「目標達成のための行動」を「見える化」することだ。業界や職種別にプロファイリングした理想の人材像を参考に学生が自分自身を磨いていけるような情報提供を目指す。これからも、教職員が一丸となって就職支援に取り組んでいく。


ゼミ担当のキャリアセンター職員に相談する学生

濵田ゼミ

学生の長所を伸ばし 自分の道を切り拓く力を

就職先　株式会社三井住友銀行


濵田教授と話す　左から　経営学科4年　山内智美さん（愛媛県／西条高校出身）
重松　彩さん（愛媛県／東温高校出身）
内田成美さん（広島県／府中高校出身）

本学から3名の学生が株式会社三井住友銀行に内定した。その全員が所属する濵田ゼミでは、一昨年も同様に銀行に卒業生を輩出している。ゼミでの取り組みや進路指導について、濵田敏彦教授に話を聞いた。

「ゼミでは金融業界への就職支援に特化しているわけではなく、グループワークを中心に、課題解決のための情報収集・分析、プレゼンテーションを繰り返す学習などを行っています。今回の結果は、ゼミのみならず、興動館プロジェクト、クラブ活動などの諸経験で培った学生らのチャレンジ精神と努力の賜物です。

また、私のゼミでは、『よく学び、よく遊べ』をモットーに、ゼミ合宿や研修旅行、大学祭での模擬店など、さまざまな行事を仲間と経験する機会を設けています。学生には、行事を通してコミュニケーション能力や問題解決力を磨いてほしいと考えています。私もこれらの行事をともにしながら学生らの長所を見つけ、就職相談のアドバイスなどに活かすようにしています」と話した。

銀行から内定を得た学生たちにも話を聞いた。

「自ら率先して行動するゼミの仲間たちに刺激を受け、受け身だった自分を変えようと踏み出すことができました。興動館プロジェクトの『太田川キレイキレイプロジェクト』でイベントリーダーに挑戦し、自信がつきました。就職支援では濵田先生から『自信を持てば大丈夫』と応援していただき、苦手だった面接も最後には楽しめるまでになりました」と山内智美さん（経営学科4年・愛媛県／西条高校出身）は笑顔で話した。

重松彩さん（経営学科4年・愛媛県／東温高校出身）は、「就職活動を始めてすぐに内定をいただいた会社がありましたが、自分が本当にやりたい仕事なのか悩んでいました。そんな時、以前濵田先生に言われた『やりたい気持ちがあるのにあきらめるのはもったいない』という言葉を思い出し、憧れていた銀行員を本気で目指すことを決意。夢を叶えることができました」と力強く話した。

内田成美さん（経営学科4年・広島県／府中高校出身）は、「ゼミで鍛えられたグループワークやプレゼンテーションの力が就職活動でも活かされました。自分が三井住友銀行を受けてもよいものか悩んでいたときに、濵田先生が『悔いが残らないようにやってみなさい』と背中を押してくれました。とても感謝しています」と満面の笑みで語った。

学生の個性を引き出す濵田ゼミでは、今年もゼミ生全員が内定を獲得した。

渡辺ゼミ

プロ球団職員に 2年連続で学科生

就職先　株式会社広島東洋カープ


渡辺教授と話す　スポーツ経営学科4年　吉中友理絵さん
（広島県／呉宮原高校出身）

スポーツ経営学科の学生が株式会社広島東洋カープの職員として就職内定を果たした。同学科からは、昨年も広島東洋カープへの就職者を輩出しており、2年連続で球団職員への就職が決まった。

内定したのは、渡辺勇一ゼミ所属の吉中友理絵さん（スポーツ経営学科4年・広島県／呉宮原高校出身）。

「憧れの企業から内定をいただくことができ、とてもうれしいです。広島東洋カープの採用試験は、作文や面接で意表を突く問題や質問が出されることがあります。渡辺先生との模擬面接では『他人とは違う発想と個性を発揮すること』を何度も指摘されました。先生は元スポーツジャーナリストで球団職員の採用事情にも詳しいため、的確なアドバイスをいただけてとても心強かったです」と吉中さんは語った。

吉中さんはもともとスポーツジャーナリストを目指していたが、就職活動は思うように運ばなかった。そんな時、渡辺教授から広島東洋カープへの応募を勧められ、挑戦しようと決意した。興動館プロジェクトでは、「スポーツによる地域活性化プロジェクト」に取り組み、また課外活動ではスポーツを通じて地域貢献をめざす『トップス広島』の広報紙制作に携わるなど、多様な経験が就職活動にも活かされた。

渡辺教授は、吉中さんやゼミ生の就職支援について次のように話した。

「プロ球団の仕事は一見華やかに見えますが、職務は想像以上にハードで、憧れだけでは通用しない世界です。何事も粘り強く、前向きに取り組む吉中さんなら、この世界で情熱を持って仕事に取り組んでいけると思っています。

私は新聞記者時代に面接や作文の採点など社内で採用活動に携わった経験があるため、ゼミ生の履歴書やエントリーシートの作成指導も積極的に行っています。しかし、教員のサポートだけでは限界があるため、学生にはキャリアセンターを活用することを勧めています。ときには私が学生を連れて行き、職員の人たちに協力してもらうこともあります。積極的に足を運んでいる人ほど、自分の納得のいく結果を手にしています」と笑顔で語った。

渡辺ゼミの学生は、スポーツ業界はもちろん、IT、建設、食品関連など多様な業界での内定を得ている。

私の就職活動体験記

充実したサポートが力に

就職先　株式会社NTTデータ中国


ビジネス情報学科4年
竹田　勇輝さん
広島県／廿日市高校出身

IT業界が生み出す技術やサービスは社会のあらゆる分野に活かされ、人びとの暮らしを支えています。私はそうした情報通信の最先端で働き、地元の広島県に貢献できるデータ通信システムを開発したいと思い、IT業界を選びました。

広島経済大学の就職支援はとても充実していて心強かったです。例えば、キャリアセンターが行う「就職ガイダンス」に早期から参加していたことで就職活動に対する心構えができ、落ち着いて就職活動のスタートを切ることができました。また、実際の選考が始まってからは、キャリアセンターの方に履歴書やエントリーシートを何度も添削してもらったことで、自信を持って企業の採用試験に臨むことができました。さらに、キャンパスで実施する企業の合同説明会では、広島経済大学の卒業生が企業の代表として来られることも多く、とても親身に相談にのっていただけたのが印象的でした。

こうしたたくさんのサポートのおかげで、理想の企業への内定を獲得できました。今後は、プログラミングや情報処理関連の資格取得にも力を注ぎ、プロフェショナルな仕事ができるよう頑張ります。

諦めない力が大切

就職先　株式会社SOME（映像・番組制作会社）


メディアビジネス学科4年
増田　愛香さん
岡山県／清心女子高校出身

映像・番組制作を手がける東京の会社に就職を決めました。ずっとマスコミ業界で働きたいと思っていたので、夢を叶えることができて本当にうれしいです。

夢を叶えるために、大学生活で心がけたことは、「今、自分にできることは何か」を考え行動したことです。勉強はもちろん、サークルや興動館プロジェクト、インターンシップなど、興味のあることに積極的に取り組みました。なかでも、2年次生の時に経験した地元広島のテレビ局でのインターンシップは、憧れの業界を知る貴重な機会になり、「この業界で働きたい」という強い気持ちで就職活動に臨む原動力になりました。

3年次生の11月には「面接・グループディスカッション対策講座」を受講し、面接の実践練習を何度も繰り返しました。その経験が実際の面接でも活かされ、持ち前の明るさと笑顔を忘れず、落ち着いて自分の思いを伝えることができました。

就職活動が思うように進まず悩んだこともありましたが、そんな時はキャリアセンターの方にとことん話を聞いてもらいました。私の性格なども踏まえて前向きになれるよう励ましてもらえたことも、夢を諦めずに頑張る力になりました。心から感謝しています。

励ましあった仲間に感謝

就職先　独立行政法人国立病院機構中国四国グループ


経済学科4年
金子　聖さん
山口県／光高校出身

3年次生の時は、民間企業か公務員か悩みながらも、民間企業に就職するつもりで、企業説明会や面接・ディスカッション対策講座にも積極的に参加しました。しかし、2月から公務員養成講座も受講し始め、その時、講師の先生のアドバイスで、諦めずに公務員試験に挑戦してみよう！という気持ちが高くなりました。

公務員養成講座では、効率的な勉強方法などを教えてもらえたことや、受験先の選択について先生が親身になって相談にのってくださったことが、とても印象的でした。また、講座を受講して一番良かったのは、励まし合える仲間ができたことです。勉強に疲れた時は、友だちと出かけてリフレッシュすることで、気持ちを切り替えて再び勉強に励むことができました。

公務員を目指したいと思っている方は、キャリアセンターの職員の方や公務員養成講座の先生に積極的に相談するのがいいと思います。きっと全力でサポートしてくれますよ。

平成28年度 学生募集要項

学部および大学院の入試要項を配付しています。
お申込みは本学ホームページ・電話・メールなどで。
〒731-0192　広島市安佐南区祇園五丁目37番1号
(学部・大学院)入試課 ☎082-871-1313 ／ ✉ent-sc@hue.ac.jp
(留学生)国際交流室 ☎082-871-1002 ／ ✉int-sc@hue.ac.jp

■大学院　博士課程前期課程
[一般選抜入学試験（Ⅱ期）]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程[研究者養成コース・経済学専修コース]10名(外国人留学生・社会人特別選抜、国外受験者、外国人留学生指定校推薦を含む)
出願期間	Ⅱ期＝平成28年1月20日(水)～2月9日(火)【締切日消印有効】
試験日	Ⅱ期＝平成28年2月18日(木)・19日(金)
合格発表	Ⅱ期＝平成28年2月24日(水)午前10時

[社会人特別選抜入学試験（Ⅱ期）]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程前期課程 [経済学専修コース]若干名(外国人留学生を含む)
出願期間	Ⅱ期＝平成28年1月20日(水)～2月9日(火)【締切日消印有効】
試験日	Ⅱ期＝平成28年2月19日(金)
合格発表	Ⅱ期＝平成28年2月24日(水)午前10時

■大学院　博士課程後期課程
[一般選抜入学試験]

募集人員	経済学研究科経済学専攻博士課程後期課程(研究者養成コース)3名(外国人留学生、国外受験者を含む)
出願期間	平成28年1月20日(水)～2月9日(火)【締切日消印有効】
試験日	平成28年2月18日(木)
合格発表	平成28年2月24日(水)　午前10時

■学部　資格スカラシップ推薦入学試験（2期・3期）

募集人員		経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
2期	出願期間	平成28年1月4日(月)～1月22日(金)【締切日消印有効】
	試験日	平成28年2月6日(土)
	合格発表	平成28年2月12日(金)午後3時
3期	出願期間	平成28年2月13日(土)～3月2日(水)【締切日消印有効】
	試験日	平成28年3月8日(火)
	合格発表	平成28年3月11日(金)午後3時

※要問合せ

■学部　一般入学試験（1期・2期）

1期	募集人員	経済学部／経済学科105名、経営学科100名、ビジネス情報学科25名、メディアビジネス学科25名、スポーツ経営学科25名
	出願期間	平成28年1月4日(月)～1月22日(金)【締切日消印有効】
	試験日	平成28年2月6日(土)・7日(日)
	合格発表	平成28年2月12日(金)午後3時
2期	募集人員	経済学部／経済学科20名、経営学科20名、ビジネス情報学科5名、メディアビジネス5名、スポーツ経営学科5名
	出願期間	平成28年2月13日(土)～3月2日(水)【締切日消印有効】
	試験日	平成28年3月8日(火)
	合格発表	平成28年3月11日(金)午後3時

※1期：試験日自由選択・複数学科併願制　2期：複数学科併願制

■学部　入試センター入学試験（1期・2期）

1期	募集人員	経済学部／経済学科40名、経営学科40名、ビジネス情報学科10名、メディアビジネス学科10名・スポーツ経営学科5名
	出願期間	平成28年1月4日(月)～1月29日(金)【締切日消印有効】
	合格発表	平成28年2月12日(金)午後3時
2期	募集人員	経済学部／経済学科10名、経営学科10名、ビジネス情報学科5名、メディアビジネス学科5名
	出願期間	平成28年2月13日(土)～3月2日(水)【締切日消印有効】
	合格発表	平成28年3月11日(金)午後3時

※1・2期：複数学科併願制

■学部　社会人入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	平成28年2月13日(土)～3月2日(水)【締切日消印有効】
試験日	平成28年3月8日(火)
合格発表	平成28年3月11日(金)午後3時

※要問合せ

■学部　編入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	平成28年2月13日(土)～3月2日(水)【締切日消印有効】
試験日	平成28年3月8日(火)
合格発表	平成28年3月11日(金)午後3時

※要問合せ

■学部　外国人留学生公募制推薦入学試験

募集人員	経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	平成27年12月7日(月)～12月23日(水)【締切日必着】
試験日	平成28年1月9日(土)
合格発表	平成28年1月14日(木)午後5時

※複数学科併願制

■学部　外国人留学生入学試験【国内志願者】（Ⅰ期・Ⅱ期）

募集人員	Ⅰ・Ⅱ期＝経済学部／経済学科・経営学科・ビジネス情報学科・メディアビジネス学科・スポーツ経営学科　若干名
出願期間	Ⅰ期＝平成28年1月15日(金)～1月28日(木)【締切日必着】 Ⅱ期＝平成28年2月8日(月)～2月18日(木)【締切日必着】
試験日	Ⅰ期＝平成28年2月8日(月)／Ⅱ期＝平成28年3月9日(水)
合格発表	Ⅰ期＝平成28年2月12日(金)午後5時 Ⅱ期＝平成28年3月11日(金)午後5時

※複数学科併願制(3学科まで)

平成28年度AO・推薦入学試験結果報告

平成28年度推薦入学試験を11月18日に実施した。
また、9月には、AO入学試験を実施した。
以下の表を入試結果として報告する。

●AO入学試験

入学試験	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
AO	20	25	25	7	3.6

●特別推薦入学試験

分野	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数					
				経済学科	経営学科	ビジネス情報学科	メディアビジネス学科	スポーツ経営学科	合計
スポーツ	35	82	82	31	25	3	2	16	77
特定資格	15	16	16	1	7	5	3		16
文化・社会	10	7	7	3	3	0	1		7
海外経験	2	0	0	0	0	0	0		0
合計	62	105	105	35	35	8	6	16	100

●資格スカラシップ推薦入学試験（1期）

入学試験	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数					
				経済学科	経営学科	ビジネス情報学科	メディアビジネス学科	スポーツ経営学科	合計
資格スカラシップ	若干名	11	11	4	7	0	0	0	11

●一般公募制推薦入学試験

募集学科	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数		
				合計	競争率	ボーダー
経済学科	55	119	118	75	1.6	138点
経営学科	50	108	107	67	1.6	138点
ビジネス情報学科	10	41	40	23	1.7	136点
メディアビジネス学科	10	26	25	20	1.3	133点
スポーツ経営学科	10	48	47	28	1.7	149点
合計	135	342	337	213	1.6	

平成27年度前期資格・能力等表彰者


表彰者

●文章読解・作成能力検定【2級】惣明達矢（メディアビジネス学科4年）、沖本実季（メディアビジネス学科4年）、今原佳南（メディアビジネス学科4年）、水野上和礼（経済学科3年）、花田孝輔（経済学科3年）、一色柚佳里（経済学科3年）、石原穂高（経済学科3年）、三宅裕貴（経営学科3年）、谷本麗華（メディアビジネス学科3年）、上野桃子（メディアビジネス学科3年）、藤原万菜（メディアビジネス学科3年）
●日商簿記検定【2級】渡邊桂（経営学科4年）
●ファイナンシャル・プランニング技能検定【2級】井上貴裕（経済学科4年）、赤羽宏太（経済学科4年）
●ITパスポート試験　竹田勇輝（ビジネス情報学科4年）
●TOEIC【500点以上】河城将佳（経済学科2年）、ダオ ミリン（経営学科2年）

経済学科増原教授が秋の叙勲で旭日重光章受章


勲章を賜った増原教授

平成27年11月5日、宮中において、「平成27年秋の叙勲重光章勲章伝達式」が執り行われ、本学経済学科の増原 義剛 教授／元内閣府副大臣、元総務大臣政務官、元衆議院議員が「旭日重光章」を受章した。

叙勲は、国家又は公共に対し功労のある方、社会の各分野における優れた行いのある方などを表彰するものであり、国会議員時代の議案審議の功労が認められたものである。

教務課小池課長補佐が広島市スポーツ表彰を受賞


賞状と盾を手にする小池課長補佐

平成27年11月25日、広島市市役所講堂において、本学の陸上競技部顧問を務める、小池 剛 学務センター教務課課長補佐が、「平成27年度広島市スポーツ表彰」を受賞した。この賞は、広島市のスポーツの普及振興に著しく貢献した功績を称え贈られる賞である。

自衛消防講座・訓練実施


訓練の様子

平成27年9月15日

学内で、火災・災害等が発生した際、自衛消防隊が迅速かつ的確に行動できるように、事務職員約80名で訓練を実施した。地域の消防署の方に協力をしていただき、自衛消防講座、避難器具、消火器、救命措置（AED）を使って、それぞれのしくみや取扱方法を学習。最後に、地震、火災を想定して地区隊の訓練及び本部隊への通報訓練を行った。災害は忘れた頃に起こる。いざというとき、今回実施した訓練を役立てていきたい。

人事

退職
〈平成27年10月31日付〉
◆教育職【教授】渡邉昌彦

異動
〈平成27年8月1日付〉
◆事務職【教育・学習支援センター教学情報分析課】沖胡一 課長▽西國真一 主任

事務組織設置
〈平成27年8月1日付〉
◆事務職　教育・学習支援センター教学情報分析課を設置

第4回 国際スポーツサロン

マーティン・ヘーゲレ氏が講演 同時に名誉博士号授与式も


マーティン・ヘーゲレ氏

平成27年11月4日、国際的に活躍するスポーツ関係者を広島に招へいし、スポーツをテーマに「第4回国際スポーツサロン」を広島国際会議場において開催した。

今回は、ドイツ・プロサッカーリーグのFCバイエルン・ミュンヘンで国際展開の責任者を務めるマーティン・ヘーゲレ氏による講演が行われた。ヘーゲレ氏は、かつて国際スポーツジャーナリストとして、オリンピックやサッカーのワールドカップ等で取材し活躍。現在では、積極的にメディアを活用すると同時に、バイエルンのスター選手を起用してクラブの人気を高めることに成功し、世界屈指の人気クラブチームになっている。

このような功績のあるヘーゲレ氏に対して、講演の開催と同時に広島経済大学名誉博士号を贈呈した。

なお、第4回国際スポーツサロン運営において、スポーツ経営学科学生有志たちも携わり、座学では味わうことのできない貴重な経験をすることができた。

図書館報「JavaLa」第15号刊行のお知らせ



設置場所　学内各所
(年2回（4月、10月)発行)

「JavaLa（ジャバラ）」は〝あなたと図書館をもっと身近にしたい〟というキャッチフレーズのもと、より多くの学生に図書館へ来てもらうことを目的に、平成20年12月にリニューアル創刊。今回で15号となる「JavaLa」は、毎号表紙に登場する学生が話題に。表紙のモデルは図書館利用学生で、写真部がカメラマンとなり撮影。その他、図書館サービスの案内や本の紹介などミドコロ満載の図書館報。

本学図書館
所蔵書物紹介コーナー　知の系譜　No.38

デューラー「測定術教本」初版 1525年　ニュルンベルク刊



Dürer, Albrecht, 1471-1528
　Underweysung der messung mit dem zirckel von richtscheyt in Linien ebnen unnd gantzen corporen,
　… zu nutz allen kunstlieb habenden.
　Nuremberg : [Hieronymus Andreas Formschneider], 1525　89 leaves ; 29cm
　PMM 54　Haskell F. Norman 旧蔵書

著者のデューラーはドイツを代表する芸術家。子どもの頃から人並外れた絵画の才能があり、金細工師の家業を継がず画家となった。当時のドイツでは、画家は職人として扱われ、絵画も芸術の対象ではなかったが、デューラーは油絵や銅版画など、歴史に残る優れた作品を精力的に制作しながら、人体の比例といった美術理論の研究に没頭した。彼が研究を始めたきっかけはルネサンス美術が全盛だったイタリアにある。そこで画家が芸術家としての地位を築き、理論や知識を探求する姿に刺激されて、絵画の技術的な面はもちろん、美術理論にも関心をもつようになった。

デューラーは自らが学んだ絵画に関する知識をまとめ、『絵画論』として出版するつもりでいた。しかし、その内容が難解になりそうだったので、基礎知識として先に出版したのが、この『測定術教本』である。彼自身による木版画の挿絵とともに、様々な図形や装飾、立体について数学的な視点で説明があり、コンパス等を使った作図の手順も具体的に紹介されている。画家だけではなく、造形に携わるすべての職人に向けた内容で、当時のドイツの日常語や職人ことばを用いながら、わかりやすく書かれている。デューラーの死去により『絵画論』は未完となったが、彼の死後、本書はラテン語の翻訳が出版されたことでヨーロッパ中に広まり、美術理論の基礎として長く読み継がれた。

BOOKS

◆広島経済大学経済研究論集　第38巻　第2号(2015年9月)
【論　説】
VARモデルによる日本の金融緩和政策効果の検証
—2009年～2014年の期間について—　前川 功一(教　授)
小村 衆統(広島大学名誉教授)
永田 修一(関西学院大学商学部助教)
スマートフォン市場におけるSamsungの成長戦略　山本 雅昭(教　授)
Cisco's High -Touch Sales Strategy:
A Discussion on How Cisco Entered The Japanese Market　Kenneth I. Tsuye(准教授)
日系家電メーカーの初期海外活動　—松下電器のビルマへの技術援助—
藤田 順也(准教授)
美術館の競争力とクラスター形成　堀江 浩司(准教授)
【研究集会報告】
環境とビジネス　—カーシェアリング企業Zipcarの事例を中心として—
山内 昌斗(准教授)

◆広島経済大学研究論集　第38巻　第2号(2015年9月)
【論　説】
教科書の問題理解に関する方略を基にした授業づくりに関する研究
—中学校数学の題材を事例にして—　平岡 賢治(教　授)
野間 純一(長崎市立式見中学校教諭)
市民型スポーツボランティアの地域愛着とチームイメージとの関連
松本 耕二(准教授)
渡辺 泰弘(准教授)
【研究ノート】
納税者の視点から見た日本の租税法に関する基礎的研究(Ⅱ)
餅川 正雄(教　授)
Digital Storytelling with Tablets to Share Experiences of the Tohoku Earthquake
土屋 祐子(准教授)
北村 順生(新潟大学准教授)

学生の皆さんへ
『論集』には先生方の最新の研究成果が掲載されています。最新号は、1号館玄関・図書館・メディア情報センター等に置いていますので、各自自由に持ち帰ってください。また、バックナンバーをご希望の場合は、地域経済研究所まで来てください。